会　　議　　録

会議の名称	多摩六都科学館基本計画策定委員会
開 催 日 時	平成 25 年 5 月 28 日（火）午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで
開 催 場 所	多摩六都科学館 201 会議室
出　席　者	（委員）縣　秀彦委員、飯野雄資委員、小川義和委員、高橋真理子委員、 福本志濃夫委員、（欠席：玉村雅敏委員） （事務局）尾崎事務局長、神田管理課長、豊田主査、内海主任、小菊主任、 寺島 （指定管理者）髙柳館長、廣澤統括マネージャー （基本計画策定業務受託者）有限会社プランニング・ラボ　村井良子代表
議　　題	１開会挨拶　　２委嘱状交付　　３職員紹介及び委員自己紹介 ４会長及び副会長の選任　　５多摩六都科学館運営協議会の運営について ６多摩六都科学館運営状況報告　　７依頼　　８視察
会 議 資 料	資料１－１　多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱 資料１－２　附属機関等の会議録作成に関する要綱 資料２　多摩六都科学館基本計画策定委員会名簿 資料３　多摩六都科学館基本計画（平成 16 年度～平成 25 年度） 資料４　多摩六都科学館基本計画（平成 16 年度～平成 25 年度）の検証・評価（案） 資料５　多摩六都科学館事業評価報告書（平成 20 年度、21 年度、23 年度） 資料６　多摩六都科学館第２次基本計画の枠組み（案） 資料７　多摩六都科学館第２次基本計画調査計画（案） 資料８　多摩六都科学館第２次基本計画策定のスケジュール概要 参考資料１　多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表 参考資料２　多摩六都科学館ボランティア・アンケート調査結果
会 議 内 容	□全文記録 ☒発言者の発言内容ごとの要点記録 □会議内容の要点記録
発 言 者 名	発 言 内 容 （別紙　多摩六都科学館基本計画策定委員会第１回会議　議事録本文）

会議内容
１．開会 ２．委嘱状交布 ３．委員自己紹介及び職員紹介 ４．委員長及び副委員長の選任 ○委員長：縣 秀彦委員　副委員長：小川 義和委員を選任 ５．多摩六都科学館基本計画策定委員会の運営について (1) 多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱 ○事務局： 「多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱」に基づき本委員会設置の趣旨を説明。 多摩六都科学館の管理運営を計画的に推進することを目的とし、多摩六都科学館基本計画を策定するため委員会を設置する。 　委員会の設置期間は本委員会で検討し、基本計画案を作成して組合管理者に報告するまで（来年１月）の予定である。 　尚、本委員会の会議を原則として公開したい。 ○委員： 　全員挙手、異論なし。公開決定。 (2) 附属機関等の会議録作成に関する要綱 ○事務局： 「附属機関等の会議録作成に関する要綱」に基づき、会議録作成に関する概略を説明。会議録の作成方法を「発言者の発言内容ごとの要点記録」としたい。 ○委員： 　特に異論なし。「発言者の発言内容ごとの要点記録」と決定。 ○事務局： 　名簿・連絡先の確認 ○委員： 　特になし ６．多摩六都科学館運営状況報告 ○事務局： 　経過説明および事業概要、リニューアル事業の状況・指定管理者の導入、平成 24 年度の利用者数の実績、歳入・歳出、多摩六都広域連携プランについて説明 ○委員： 　入場料・プラネタリウムの観覧料の割合はどのようになっているのか？

○事務局：
　入場料と観覧料は１：１。大人の入館料は 500 円、プラネタリウムの観覧料が 500 円、大型映像 500 円で合計 1500 円、子どもは入館料 200 円、プラネタリウム 200 円、大型映像 200 円の合計 600 円となっている。

○委員：
　学校利用についてはどうなっているのか？

○事務局：
　圏域の学校は半額、先生は無料。他市は団体割引として２割引。

○委員長：
　５市での学校利用の割合はどうなっているのか？

○事務局：
　例年、学習団体全体で約１万５千人、５市で約６千人の利用がある。

○委員：
　地域の学校は殆ど来ているのか？

○事務局：
　小学校はだいたい来ているが、中学校は最近ではあまり来ていない。理由は学校が忙しくて校外学習ができないことが考えられる。

○委員：
　参考資料３にあるリピーターの定義とは？

○事務局：
　アンケート調査により、２回以上来館した人。尚 10 回以上来館しているリピーターの割合は５％～15％以上いる。

○委員：
　リピーターの料金は？

○事務局：
　友の会があり、多くのリピーターはこちらに入会している。入館が無料になる。

○委員：
　友の会の会費は一年間でいくらか？

○事務局：
　一般的な家族会員（大人２人・子供２人）で 5000 円。一般の大人が 2500 円、子供が 1000 円。

○委員：
　プラネタリウムは含まれていないのか？

○事務局：
　含まれていないが年によって１回無料で招待や、試写会などを用意している。

○委員：
　会員は何人くらいいるのか？
　また、友の会の人だけの事業はあるのか？

○事務局：
　1000 人くらい入会しており、友の会独自事業には、近隣の自然観察会や、バスツアーで海の生き物の観察に行ったりできるものを用意していた。

○委員長：
　プラネタリウム人気での来館者が多いのか？

○事務局：
　10 万人位来館がある。（大型映像含む。）来館者が多い年でも少ない年でもプラネタリウムは毎年 10 万人以上の利用がある。昨年来館者の 18 万人のうちプラネタリウム利用者は 14 万人であった。

○委員長：
　プラネタリウムがギネスに認定されているのは、星が一番きれいということか？
　また、それがお客さまが増えている最大の理由なのか

○事務局：
　星の数が世界一多い点と大型プラネタリウムでははじめて LED を使用している技術的な点がギネスに認定されている。
　特にシニア層はギネス認定という点に興味を持っているように思われる。

○委員長：
　入館者数の変化は国立科学博物館などと大体同じ傾向なのか？

○委員：
　この科学館の売りはどこなのか？プラネタリウムが目玉で、プラネタリウムを見た人が展示室をみていく、といった感じなのか？
　プラネタリウムだけ見る人、展示室だけ見る人、あるいは両方見る人の割合はどうなっているのか？リニューアルしてどのくらい変わってきたのか見たい。

○事務局：
　展示室は自由に見学できるため、展示室だけ見ている人等の実態は把握できていない。常設展示のリピーターは少ないと思われ、常設展示は初めて来館した人向けとなっているが、一方でクイズラリーをきっかけとしたコアなリピーターも発生している。
　クイズラリーのカードは年間約１万枚利用されている。また、特別展示は大きく集客に寄与している。（資料４の２頁目参照）

○委員：
　（資料４より）18 万人の内訳がわからないのだが、サイエンスエッグの 14 万人とどこを足して 18 万人なのか？

○事務局：
　全体で 18 万人の来館者のうち、サイエンスエッグ利用者が 14 万人であるので、残り４万人が展示のみと考えられる。

○委員長：
　３月にリニューアルしたのが開館以来最大のリニューアルであるのか？
　Do サイエンス！ということで、ラボ形式にし、コミュニケーションスタイルを取り入れて、来館数や満足度がどう変わったのかを押さえて、基本計画を策定していきたい。
　また、どこの科学館でもリニューアルしたくても財政的な問題があるが、こちらの科学館では組合としてお金を準備してきたということなのか？

○事務局：
　基金として科学館で今まで貯金をしてきた。今までの基本計画に沿った財政計画がしっかりオー

ソライズされ、５市や東京都に、科学館の健全な財政運営の中で将来を見越した設備投資事業を計画していくことが認められた成果であると思われる。

○委員長：
　これからの基本計画に沿って財政計画も立てることになると思うが、五市や都からの支援はあるのか？

○事務局：
　都からの直接の支援はないが、構成市を通じてはある。

○委員長：
　市民の皆様などを含めてこの基本計画をどう立てるかは影響力があることだと思う。

７．議事
(1) 第１次基本計画の検証・評価
○事務局：
　第１次基本計画は、施設のミッションを明確にし、事業体系を明らかにすることに重点を置き、個々の目標提示が甘かった。第２次基本計画ではこの点を改善していきたい。
　第１次基本計画の検証としては事業テーマの設定が大きく意味を持っている点、指定管理者制度に変更した点、自主財源比率目標数値を 30%に定めた点等がポイントになったが、プレス対応の強化の進展がはかどらなかった点、施設の老朽化対策等に課題が残った。
　資料の収集と保管活用、調査研究等、事業評価委員会があげた当館の弱点に対しては克服するよう努力してきた結果、一定の成果が見られた。（資料４参照）

○委員長：
　個人的には達成状況の自己点検は辛めにつけているように思う。

○事務局：
（資料５）評価委員会の報告書における採点を参考にして今回の評価に反映させている。

○委員長：
　第２次基本計画は来年から10年間の計画を私達で１年で作るということなのか？会議は何回くらいの予定なのか？今回の資料３-1 にあたる資料を作るということなのか？

○事務局：
　会議は４回くらいの予定。（資料３-1 より）今回は戦略計画なので分量的にはもっと項目も少なく整理されたものになるのではないかと思われる。

○委員長：
　歴史的に確認すると、平成６年に開館し、子供科学博物館基本計画に基づき設置、平成 14 年位に運営協議会を作り、アウトソーシング的なしくみに、マネジメント面を組み込んで協議会で議論をしてとりまとめたものがこの基本計画であった。そして、これに沿ってこの 10 年は常に何をやるかという検証・評価を毎年行ってきた。評価委員会や色々な委員会が他にもあったが、基本的にはどうやって実行してきたのか？

○事務局：
　一番大きいのが評価委員会である。リニューアル時にはリニューアルのための専門委員会を設置した。

○委員長：
　評価委員会は毎年やってきたのか？館の一人一人が自己点検をして自分のミッションステートメントを克服し全体で議論し、修正を加えてここに来ているということか

○事務局：
　その通りである。

○委員長：
（資料３－１の４頁について）目標達成の３原則をもとに基本理念を掲げ、これを達成するために、課題としての９項目を挙げている。この９項目に沿って資料４があるということでいいのか

○委員：
　基本計画は非常によくできている。目標達成の３原則は普遍的なものであり、価値に相当する。すなわち、「社会への貢献」は社会的価値、「利用者中心」は個人的価値、「専門機能の充実」は組織的価値である。一般的には組織的価値の人たちだけが集まっていると、社会的価値を主張する人たちとうまくいかないというのがあるため、３つの価値のバランスをとっていくことが大切。３つの価値がきちんと評価されていれば素晴らしいものになると思う。ただ、これらが組織上どうなっているのかが気になる。最終的に誰が責任をもってやっていくのか、誰が見ていくのかという話になっていくと思うのでしっかり理解しておきたい。

○事務局：
　そこのところは、第２次基本計画のテーマになってくる。資料６に第２次基本計画の枠組みが記してある。第１次の時の問題・課題を洗って、どうやって計画を策定していくかということになる。使命・目標から見直しをはかり、どのように戦略的に実現していくかを決めていく。使命から取組方針までの４つが今回の第２次の中身になってくる。
　またこの科学館は指定管理者制度に移行するという大きな変化を遂げたが、ピラミッド型の図の下２段は組合と指定管理者が協議してすすめていくべきところである。構成５市や組合が関わるガバナンス部分はどうしたら適切に実現できるか審議してもらいたい。

○委員：
　ラボを強化したという話があったが、考える側と現場の声と違うこともある。下から押し上げていく仕組みを作っていかないと、上手くいかないのではないか。

○委員長：
　有識者・ボランティアによる評価委員を作って設置者に直接意見を言えるようになったとのことだが、上手く機能しているか検証が必要。ミッションの見直し・中長期的な目標の設定・戦略目標をそれぞれのところでまとめていって、１つにして設置者に提案するということになる。

○委員：
　達成状況に対して職員はどのように携わっているのか

○事務局：
　事業評価活動の中で自分のやることについて企画シートを記入し、こちらで振り返りまで行う。さらに現場で回っているツールをもとにして年間の事業計画がどうであったかを見直したものを事業評価委員会に提出して客観的に話し合ってもらう。この時には現場のチーフ等がヒアリングに参加する。こちらをベースにして 10 年間の検証を作成した。

○委員長：
　指定管理者の方でも同じやり方をしているのか？

○事務局：
　基本的には同じであるが、指定管理者の方が検証する領域がもっと広くなっている。各シートに加え、指定管理者の方でモニタリングシートを作成し、提出する流れになっている。

○委員長：
　組合で考えている第２次基本計画の展望を教えて欲しい。

○事務局：
　第１次基本計画において目標があったものは検証しやすかったが、ゴールがわからないと評価できなくなり、曖昧さが残ってしまう。この十年で何をすべきだったかを明確にすべきだったという反省点が残った。第２次では目標を明らかにし、達成できているかを皆から見える形にしたい。従って戦略計画型の基本計画にしたい。

○委員長：
　財政的な計画が必要となるが、これからの十年も今と同じ規模で五市からの負担を想定できるのか？

○事務局：
　五市の負担金を増やすのは厳しいので最低限現状維持と考えている。利用料金制度なのでそこで上手くやっていかねばならない。ある一定の集客は目標に入ってくる。基本的には財政規模は現状をベースにと考えている。

○委員：
　高齢化・人口減少が進んでゆく中で科学館がターゲットとする客層が変わっていくことがあるのか。社会的変化にどのように対応していくのか。

(2) 第２次基本計画の策定について
○事務局：
（資料６）第２次基本計画は今後の十年の指針とするもの。第１次の問題点は戦略的に欠けており基本計画と事業評価をリンクさせることができなかった。また、中長期の観点から目標値を定めていないため、経年変化を分析できないという弱点があった。 指定管理者制度の導入があったため組合と指定管理者の役割分担を明確にしていく必要もある。従ってピラミッドの図でいう上から４つが第２次基本計画で狙う部分となってくる。
　下２段は指定管理者が基本計画を作っていくにあたり、組合と協議して見直していくところである。目標管理システムが円滑に回ることで事業評価においてPDCAがサイクルとして機能していくことを狙いとする。
　尚、この委員会の下にワーキングチームを置き、策定作業、調査の分析・検討を行っていきたいと思っている。このワーキングチームが取りまとめる計画の改定・第２次基本計画案について重点的な施策を中心に委員会の意見等が適切に反映されているかをさらに検証して第２次基本計画の取りまとめに向けて審議してもらいたい。

○事務局：
　現場の方と同じ方向を向いて進めてゆく必要があるので第２回の委員会に向けてワーキンググループを作り、その際現場の方たち・運営にあたっているスタッフの方たちに参加していただき、委員の方々も日程が合えば参加してもらった上でワークショップ形式で皆で審議し、戦略計画の素案を作っていきたい。

○委員：
　ワーキンググループに私たちは入らなくてよいのか

○事務局：
　日程が合えば参加してほしい。6月に実施したい。

○事務局：
　玉村委員の意見を紹介。

○事務局：
　内容を要約すると、外部環境に変化できるものであってほしいということと、メリハリをつけて重点的な指標を打ち立てた方がやりやすいだろうということ。現場の方たちときちんと作っていく

こと、皆と同じ方向を向いてやっていくことの必要性、そしてミュージアムの魅力である「価値を共創する場」としての観点からの戦略計画をつくれるかどうかが大切であるとのことである。

○委員長：
　ワーキングのほうで現場の人も含めてワークショップなどを行いつつ、それぞれの専門家の見地からの意見を上手くミックスさせてやっていこうということであろう。ワーキングに参加できる人はなるべく参加させてもらうこと。参加できない場合はワーキングの報告や議論をゆっくり見てから参加すること。

○委員：
　ミッションから導き出される部分と現場から上がってくる部分と両方やらないといけない。
　目標管理システムで「目標が達成されればいいのではないか」というところに陥ってしまわないように気を付けるべきである。
　ここの科学館のミッションである成長という言葉をどう捉えるかということであるが、職員の成長であり、博物館に来た人の成長などここにかかわる人の成長が重要。職員の成長には研修などのプログラムも用意していかなければならないであろう。また、成長という意味で言えば、組織・地域の成長というのもどう捉えていくのかが重要である。」

○委員長：
　地域をどう成長させていくかをしっかり議論し、数値目標等を入れていくべき。

○委員：
　例えばお祭りは地域の人だけでは成功しない。外から来る人がいるから盛り上がる。周辺の関与度の少ない人々をどうフォローしていくかが課題となる。

○委員長：
　今まで携わってきたものは一般的に５年計画であった。10 年だと厳しい気がするが 10 年でやりたいという強い希望があるのか

○委員：
　東京都は 10 年後くらいのスパンで見て、それに向けたアクションプランを毎年毎年ローリングさせていく。ただ基本計画を見ていると中間で見直しをしているということでそんなやり方もあるのでは。

○事務局：
　一般的に市の計画は 10 年を基本としている。中間点で必ず見直しをしている 。ただ近年は政策分野により３年・５年等の計画も出てきているので画一的なものはないが、一度見直しをするので支障はないかと思われる。

○委員：
　仮に短いスパンにするとピラミッドのシェアが狭くなってしまう可能性もあるので、組合とよく話し合って検討してはどうか。

○委員：
　ラボやボランティアの人たちは指定管理者の人よりも長くなる人が多いと思うので長い目標がしっかりないと現場と乖離してくる。長い目標を 1 つ立てて、それに則ってやっていくようにしないといけないのではないか。

○委員長：
　ではとりあえず 10 年で、5 年に一度等見直しをしていくということにする。

(3) 利用者調査の方法について

○事務局：
（資料７参照）調査の目的は第１次基本計画の使命・目標の検証をはじめ、実績の評価であり、対象は圏域市民のうち、利用者と非利用者の両方とする。科学館がこの地域で果たしている役割や、地域の方々が望むこと、逆に利用阻害となっている原因を調べて幅広い市民の目線で、計画・策定の基礎資料としたい。

○事務局：
調査方法は館内のアンケート調査の他に、科学館の外にも積極的に出て行き、グループインタビューなども行う予定。幅広い意見を集めるためにインターネットの活用も考えている。

○事務局：
第２次基本計画策定のためのデータに関しては 数字ででてくるようなものより、定性的な調査をしていきたい。地域のキーパーソンや教師、市民活動をしている人々から意見を聞いて求められている動向を抽出していこうと考えている。専門家の方々の立場から委員の方々のご意見も反映させていきたい。ただし、これまでの検証についてはある程度の数字が必要であるため、５市の市民の方々から幅広くデータを集めていくつもりである。
基本方針として地域の生涯学習の拠点であるという科学館の考えがあるため、幅広い年代層から意見を集め、検証作業を行う。これまで非利用者からの意見をあまり集めることをしていなかったので、こちらも力を入れてゆく。特に地域社会にとってどう役立っているかという点がわかるような調査を設計して行きたい。 そのために現在ボランティアの方々を対象に予備調査を行っている。

○委員長：
スケジュールはどのようになるのか。いつまでにとりまとめたいと考えているのか。

○事務局：
夏くらいまでには終えたいと考えている。

○委員：
第１次のときにはこのような市民調査は行わなかったのか？

○事務局：
外部委託をしてこのようなことは行っていた。基礎調査として民間のシンクタンクにお願いした。学校を通じて、利用者・非利用者の保護者・子どもたちを抽出したものと館内のアンケート調査を活用して定量的な調査を行った。

○委員：
それが何か計画に反映されたのか

○事務局：
計画の中で大きく反映されているのは教育普及活動に関してである。
又、その時の調査結果が平成１２年の展示のリニューアルに貢献した。

○事務局：
前回の調査は、今後のリニューアルに関するものが多く、社会的にどう貢献しているかという設問はなされていなかったので、今回はその点もきちんと数値化できるようにしていきたい。

○委員：
第１次の計画のところで質的な部分が曖昧であったということだが、非利用者等を含めた調査をもっと充実させ、科学館にどんな価値を求めているのかを出さないといけない。調査で終わらせず、調査によって支援者を増やしていくような形をとってもよいのではないか。つぶやきや facebook を活用し、科学館のファンを増やしていくような調査の仕方をすると、後にアンケートに答えてくれた人たちが事業そのものを宣伝してくれるかもしれない。単に調査するだけではなく次の事業につ

ながる調査を望む。

○事務局：
（参考３）ボランティアの試験的な調査の結果である。先週１週間アンケートをとったものである。

○事務局：
過去 10 年間の活動を通じての目標達成度では、達成できたものもあればまだまだのものもある。こういうものを見ながら第２次基本計画でどこに向かうかを考えていきたい。

○委員：
ボランティアの方々は第１次基本計画について熟知しているのか。

○事務局：
活動年月が違うので一概には言えないが、一番多いのは３年以上活動している人たちになることを考えると相当理解しているので、今回のアンケートにも適切に答えてくれたように思う。意外であったのは３番の『地域の方々が、世代を超えた交流や自主的な活動を行うことができる拠点施設』というのが我々はできていると思っていたが、実際は厳しい意見が多かった。逆に４・７などは活動している人々の実感として強い部分が見えた。８・９のように抽象的な設問になると、相当否定的な意見も多く出た。

○委員：
ボランティアの方々の年齢層は高いのか。

○事務局：
平日なのでリタイヤされた人が多く、年齢層は高い。

○事務局：
自由回答欄からも様々な意見が出ているので、これをもとに選択肢を作り市民調査に活かしていく。

8.その他
(1) 今後のスケジュール

○事務局：
10 月 29 日の組合議会定例会で、計画案を示したい。
最終的には平成 26 年１月に完成版を仕上げるのがこの委員会の目標。
８月に２回目の委員会を予定している。その段階で指定管理者へのヒアリングを経て、計画素案を固めていきたい。
市民調査・ワーキングは６月・７月に行う予定。この日程については逐次連絡。
10 月の議会の前に第３回の委員会を予定。
最終案を調整するための第４回委員会は 12 月を予定。
これらは２月 12 日の議会の報告を経て３月にホームページで公表される。
市民の意見を聞く機会としては、7 月のグループインタビュー・9 月のパブリックコメントをホームページで発表する形でやっていきたい。

○委員：
ワーキングの予定は？何回くらい予定しているのか。

○事務局：
まだ６月としか決めていない。現場のスタッフにも参加してもらいたい。１日かけて行い、その後メール等でやりとりしてゆく予定。

○委員：
　現場の人とはボランティアとそうでない方との割合はどのくらいか。ボランティアの方を含めて行うということなのか。
○事務局：
　ワークショップにはボランティアの方は一応含めていない。

○委員：
　ボランティアの方々が、自分たちのこととして捉えられるように、自分たちの意見が言える場所を作って行くのがよいのでは

○委員長：
　私も賛成である。ボランティアの方々を強化していかないともたないので、このような計画に参加をしてもらったほうが良い。

○委員：
　やらされている感がでてしまうといけないのでその点は注意したい。

○委員長：
　パブリックコメントは川崎の時は２回施行したが、１回でよいのか。説明会をしないで大丈夫か

○事務局：
　前回の経験から１回で良いのではと考えるが、必要に応じ対処したい。

９．閉会
・次回委員会は８月下旬を予定
・６月 10 日までに日程調査票を提出のこと（メールまたは fax）